令和４年度あおもりアーツカウンシル事業報告会 資料

◆ 文化芸術創造活動助成事業 報告

[ちゃっぷん小波コース（単年度：5 万円まで助成）]

①「小さなおくりもの 2022 MOS 篇」／ＭＯＳ（モス）

②「あおもり市民参加型ドラマリーディング公演 2022」／津軽カタリスト青森支部

③「まっくろな、こわいはなし（Jetblack story telling)」／劇団青森どまんなか

④「展覧会アーカイブ活動」／Aomori Contemporary Photo Club

[ざっぷ～ん大波コース（単年度：30 万円まで助成）]

「最後の傳令　菊谷栄物語 1937 津軽～浅草 扉座ワークショップ」

／青森演劇鑑賞協会

[ゆらゆら波乗りコース（３年連続：30 万円まで助成）]

「“善知鳥彫ダルマ”を世界に発信プロジェクト 2022」

／特定非営利活動法人おどろ木ネットワーク

◆ “創造の場づくり”支援事業 報告

「あおもりアートの種 A-seeds」プロジェクトについて

◆ A-Paradise 事業 報告

・「A-Paradise2022～A-Paradise2022～みんなの A を今持ち寄って～」

・「冬の A-Paradise～ぼくらの創作体験カフェ～」

令和 4 年度 文化芸術創造活動助成事業 報告

※申請書・報告書をもとに構成

[ちゃっぷん小波コース（単年度：5 万円まで助成）]

①「小さなおくりもの 2022 MOS 篇」／ MOS

【事業の目的】
生きづらい世の中、大人だけではなく子どもたちも日常生活を送る中で、それぞれ抱えている葛藤、将来に向けての不安、また SNS による影響から思い悩むことも多い状況である。今回は既存の絵本ではなく、私たち独自のストーリーと曲によるメッセージを披露し（コロナ禍の対策として収録した DVD も作成）、それぞれに何かを感じてもらいたい。また、恐らくあまり触れることのない表現の一つを楽しんでほしい。

【制作期間】令和 4 年 9 月～令和 5 年 2 月　【制作会場】Be on space222 他

【対象】青森市内の小中学校（DVD 配布先）

【実施内容】ストーリーを考え、そこからイメージする絵を若い世代の方に描いていただき、オリジナル曲を加えて、絵、読み語り、音楽のコラボという語りで一つの表現を作り上げた。1~2 月にいくつかの小中学校で、児童、生徒と対面でこの表現を観て聴いていただく予定であったが、コロナ禍の影響で、学校から変更、延期、中止の連絡があり、三内小学校は 3 月 7 日と決定し、助成事業実施期間を過ぎてしまった。打ち合わせで「『卒業を祝うおはなし会』としてお願いしたい」と要望があった。

【助成内定額】50,000 円　【助成決定額】50,000 円

【事業効果】・実施はできなかったが、いくつかの学校で先生方に自分たちの思いを伝えることができ、また 3 月にはなるが、1 校のみ実施できることになった過程の中で、先生方が関心を示し、来年度以降の学校行事にも繋げていけそうである。
・協力者（絵、収録・編集）のお二人は 20 代で、作業の中で世代を超えての交流、刺激があり、今後の提案もあった。

②「あおもり市民参加型ドラマリーディング公演 2022」／ 津軽カタリスト青森支部

【事業の目的】私たちの「ドラマリーディング」という活動は、声によるお芝居がメインとなるため一般的な演劇のように役者同士が接触することもなく、マイクを使用するために観客とも一定の距離を保つことができる。ネット配信とも相性が良く、私たちが青森市の芸術文化活動の復活に向けた先陣を担うことができるのではないかと考えている。また「青森にゆかりのある文学作品」を得意分野として上演しているので、ライブ配信を通して、市民が改めて地域のことを好きになってもらうきっかけになれたらと考えている。さらに、この公演を機縁として「芸術に携わる新しい人材を発掘したい」という想いから、出演希望者を広く一般公募して集めようと計画。垣根なく誰でも参加でき、視聴できる「ステージ公演」と「オンライン配信」の同時併行を実施する。

【実施期間】令和 4 年 9 月 19 日（月・祝）11:00～11:50　【実施会場】青森県総合社会教育センター 大研修室

【対象】青森市民をはじめ全世界のどなたでも

【実施内容】交付決定を受けてすぐに告知チラシを作成。公演開催を案内すると共に「出演キャストの一般公募」お知らせを掲載し、新規参加者を募った。チラシを見た方から連絡があり、計 5 名の体験希望者を迎え、7 月から本番までかけて舞台稽古、準備。公演本番当日を迎え、ステージ公演を完遂。9 月 24 日（土）反省会・総括。体験参加者のうち 2 名が新しく入会した。

【助成内定額】50,000 円　【助成決定額】50,000 円

【事業効果】今回の事業は、劇団員＋一般公募参加者＋観覧者＋オンライン視聴を合計すると計 53 名の動員数となった。コロナ禍で仕方がない面もあるが、オンラインも含め、可能な範囲内で実施してみることに意義があると確認を新たにした。

③「まっくろな、こわいはなし（Jetblack story telling)」／ 劇団青森どまんなか

【事業の目的】

おとなから子どもまで楽しめる参加型の絵本読み聞かせを軸に展開。お話を聞くだけでなく、会場の「漆黒」をモチーフとした怖いしかけや灯りで、心拍数を上げていく。日常会話も阻まれる昨今だが、少しの隙間をみつけて集団の中にうずもれていたいという願いに近づけるよう、ソーシャルディスタンスを保ち、筋トレ要素も含めた軽いストレッチも取り入れ、体幹を鍛える要素も考えている。

【実施期間】令和 4 年 8 月 20 日（土）15:00～16:00

【実施会場】戸山市民センター　【対象】市民一般

【実施内容】絵本の読み聞かせ／オープニングにコーラス隊の歌／参加者 20 名

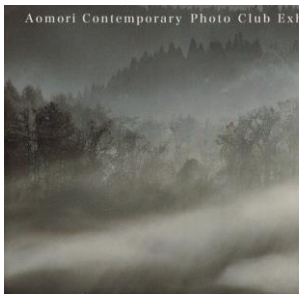
第一部　ストレッチ／うらしまたろう／三匹のこぶた／猿かに合戦

第二部　ストレッチ／かちかちやま／ゆきおんな／三枚のおふだ

【助成内定額】50,000 円　　【助成決定額】50,000 円

【事業効果】・既成の絵本を読んだ後に、オリジナルのスケッチブックストーリーを付け加えて、合計 6 つの絵本の読み聞かせを行った。受付での健康状態申告シートの書き込みがスムーズに行われ、オープニングでストレッチすることでソーシャルディスタンスが保たれていた。アンケートの結果として「昔話は実はこんなに怖かったのか」など高評価。地区のイベントとしても手応えあり。

④「展覧会アーカイブ活動」／ Aomori Contemporary Photo Club



青森市では写真作品や芸術作品を創作している方が多い。しかし発表する機会の創出がなかなかできていないと感じる。そこで、当クラブの設立目的である「市民が創作活動に取り組む土壌づくりをする」という考えのもと、写真作品、芸術作品の展覧会を開催することで、市民の積極的な活動の後押しに繋がればと考える。当クラブは作品のアーカイブが重要だと考えている。青森のアーカイブシステムがうまく機能していないために、教育普及や創造性を高めることに繋がっていないのではないか。問題提起をしながら、活動の記録というものを公開したい。それが、これからの独自性を持ったアイデアの創造につながると考える。

【実施期間】令和 4 年 7 月 12 日（火）～令和 5 年 2 月 28 日（火）

【実施会場】青森県内各地　　【対象】青森市民

【実施内容】2022 年 5 月に青森市役所駅前庁舎にて開催された展覧会の作品データ等をメンバー個人から集めた。メンバーそれぞれの作品の再編集構成を構築するために時間を要した。また国際芸術センター青森の学芸員による評価や、写真家・美術家である松本美枝子氏によるエッセイの作成に予想以上に時間がかかった。年明けに材料データがすべて集まり、加工・編集をメンバー自ら行った。2 月に印刷完了し市内や県内の様々な施設に寄贈・設置ができ、市民への公開・発表するという目的が無事達成できた。

【助成内定額】50,000 円　　【助成決定額】50,000 円

【事業効果】ただ製作・発行するだけでは意味がないので、広く市民へ公開しようと様々な図書館などにも寄贈し閲覧できるようにした。展覧会のアーカイブを作るという大きな目的の他に付随して、市民への公開ができたことは今後の当団体の活動の一助にもなることだった。これを元に市民の類似した作品製作の後押しになれると考えても良いのではないかと思う。

［ざっぷ～ん大波コース（単年度：30 万円まで助成）］

「最後の傳令　菊谷栄物語 1937 津軽～浅草 扉座ワークショップ」／ 青森演劇鑑賞協会

【事業の目的】

青森市出身の劇作家「菊谷栄」の生涯を描いた演劇公演「最後の傳令 菊谷栄物語」を開催することにより、戦前に日本を代表する劇作家として活躍しながら戦火の中に帰らぬ人となった「菊谷栄」の功績を、時代を担う青少年など広く市民に伝えることを目的とした公演を実施する。上記公演を主軸としながら「劇団扉座」からの協力を得て、青森市内の学生および 20 代向けのワークショップを開催し、次世代を担う青少年が様々な形で演劇や文化に触れる機会を設けたい。

【実施期間】令和 4 年 9 月 17 日（土）

【実施会場】青森市立油川中学校 体育館

【対象】油川中学校 演劇部員

【実施内容】

講師：横内謙介、赤星明光、田中信也、藤田直美、小笠原彩

1、体を動かすゲーム・仲間をみつけよう：お題（好きな色、誕生日、好きなお寿司など）に沿ったものを言葉で表現しながら同じものを好きな人同士でグループをつくる

・人間自動車：2 人 1 組になり、後方が運転手役になり、前進後退、右左折を操作する。前方の人は車役になり運転手の指示通りに進む

2、講義（質疑応答含）　横内謙介　・演劇に必要な〇〇力、とは　・自分自身が感じること、それを観る人に伝えること

3、実践　グループワーク

・書き下ろし戯曲「さよなら先生」：台本読み、配役、立稽古、発表

その他、教職員、地域住民、関係者の見学

【助成内定額】300,000 円

【助成決定額】300,000 円

【事業効果】・プロによるワークショップを通じて、演じること、伝えることを実践的に学ぶことができた。

・教職員、地域住民等の見学を可能としたことで、生徒の普段の活動や成長を見る機会ができた。

［ゆらゆら波乗りコース（３年連続：30 万円まで助成）］　１年目

「“善知鳥彫ダルマ”を世界に発信プロジェクト 2022」／特定非営利活動法人おどろ木ネットワーク

【事業の目的】深紅の衣を纏い、大きな目玉は前方斜め上を見据え、そこには災いや人の善業・悪行が映し出されていると言われている。このような「善知鳥彫ダルマ」の独特な風貌は大正 10 年に工芸家 今克己によって生み出され、2 代目 福井強が精神性と芸術性をより高いところに昇華をさせたものだ。この二人の努力が実を結び「善知鳥彫ダルマ」は、平成 8 年、青森県の伝統工芸品に認定された。

青森市は昔、「善知鳥村」と呼ばれていた時代もあったと言われている。また「善知鳥」にまつわる地名や物語も多く残っている。その姿は縄文時代から受け継がれてきた「祈りのカタチ」であり、青森市の伝統工芸品としてこれほどふさわしいものは無い。

県内外の多くのファンに愛されてきた「善知鳥彫ダルマ」だが、今では市内の物産館や土産物店にその姿は見られなくなった。このような状況が続けば、いつかは人々から忘れ去られてしまう。先人が 100 年の年月をかけて築き上げてきた青森県の伝統工芸品が消え失せてしまう。

【実施期間】令和 4 年 11 月 8 日（火）13:30～16:00

【実施会場】アウガ 5 階 男女共同参画プラザ AV 多機能ホール

【対象】一般市民

【実施内容】

「善知鳥彫ダルマ」が生まれて 101 年目となる節目の今年、「“善知鳥彫ダルマ”を世界に発信プロジェクト」を発足させ、「アート作品とのコラボ展」や「講演会・フォーラム」の開催、ホームページや SNS を活用して、「善知鳥彫ダルマ」の魅力を世界に発信し、これによって、地域に愛され生き続ける伝統工芸品「善知鳥彫ダルマ」として復活させ、青森市の魅力アップに繋げる。今年は「善知鳥彫ダルマフォーラム」を開催し、その内容は下記のとおり。参加者 59 名。

★フォーラム内容：開会／基調講演：日本民藝協会会長 會田秀明／善知鳥彫ダルマ調査報告会（主催者）／フォーラム

【助成内定額】300,000 円

【助成決定額】300,000 円

【事業効果】

・「善知鳥彫ダルマの持つ精神性」「芸術品か商品か」「伝統・伝承の必要性とその難しさ」等、パネラーたちの様々な視点からの建設的な意見を聞くことができた。

・会場からも熱いメッセージが 3 件あり、どれも本事業を応援し期待する声であったことから、会場が大きな拍手に包まれ“善知鳥彫ダルマ”復活に向け、十分な手応えを感じることができた。

・“善知鳥彫ダルマ”の課題は工芸品・民芸品の課題でもあり、青森市だけの問題ではなく、日本全国の民芸品・工芸品産業が抱える問題でもあることが分かった。今後は同じ課題を抱える人たちや地域と交流に発展しそうな気がする。

令和４年度　〝創造の場づくり〟支援事業 報告

「あおもりアートの種A-seeds（エーシード）」プロジェクト

【目　的】青森市内で活動するアーティストのシーズ調査、購買層である個人・企業のニーズ調査を行い地域の現状に合った形でのオンラインおよびオフラインの情報共有システムを整備することで、心も経済も豊かになれるような創造の環境づくりを３年計画で目指す。

【実施内容】〇令和４年度［1 年目］…ジャンルを「美術」に特化し、以下を開催した。

A.①R4.11.30 情報交換会「テーマ① おしえて！青森のアーティスト自己紹介・他己紹介」参加者 11 名
②R4.12.15 情報交換会「テーマ② おしえて！青森のアート・デザイン・クラフト近況」参加者 8 名
…美術系アーティスト、美術にかかわるお仕事をしている人、美術が好きな人、などが参加。
淹れたて珈琲のいい匂いの中、自己紹介や作品紹介、「青森のアートシーンについてどう思う？」等、みなさんのお話を聴くことができました。また、創作した作品について紹介をし合いました。

③R5.3.5 作品展示販売会 開催「一日限りの画廊めばえ」／同時開催「一日限りのプチ喫茶めばえ」
…公募で参加表明したアーティスト 6 名による作品展示。ほとんどの作品が購入可能であり、青森市内の作家を知ってもらうと共に、美術作品購入のハードルを下げることを目的とした。
1 日限定の開催であったが 122 名が来場。売上点数は 15 点、売上総額は 10 万円余りとなった。
珈琲と焼菓子の喫茶スペースを設置したが飲食物はすべて完売。ニーズの高さを再確認できた。

B.❶アート MAP 登録スポット追加登録→登録数は当初の 17 地点から 50 地点まで増やした。
＊追加一例：ギャラリークレイドル、浅虫コリドー、古書らせん堂、青森 Quarter など
❷市民アーティスト登録サイト「A-seeds」構築（A.①～③での調査に基づく）→試運用開始
→現在、青森市内の美術アーティストに登録を呼びかける準備を進めている。

令和４年度 A-Paradise 事業 報告

「A-Paradise」は、毎年、市ベイエリアから商店街にかけての一帯で開催しているアートや音楽等のイベントおよび実施団体名。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、音楽・ダンス・絵本読み語り等のステージパフォーマンスイベント「A-Paradise2022～みんなの A を今持ち寄って～」や、街中でアートと珈琲を楽しむ企画「冬の A-Paradise～ぼくらの創作体験カフェ～」を開催。

①「A-Paradise2022～みんなの A を今持ち寄って～」（ステージパフォーマンスイベント）

〇開催日時　令和４年９月 10 日（土）12:00～19:00／11 日（日）10:00～17:00
〇会場：新町キューブグランパレ　　〇入場観覧無料　　〇来場者数：187 名

【目　　的】近年の社会状況により、表現の大切さ、表現活動への渇望を感じた今だからこそ、多世代多ジャンルの表現者である市民が一丸となって原点回帰し、アート、音楽などで街に関わる活動をリスタートしていく。

【実施報告】市民アーティストや公募によるメインステージ出演者 16 組により、まちなかに楽しくエキサイティングな時間が流れ、ステージや会場は、平和を願う大小の「ハトねぶた」で彩られた。アーティスト目当ての来場はもちろん、通りを歩いていて音や踊りに誘われて入場する方もいた。街に音楽やアートが溶け込むという現象は、新町通りのガラス張りの新町キューブならではの光景だった。オープニングとフィナーレでは、A-Paradise 副部会長によるオリジナル曲「A-Paradise」に、大学生メンバーがダンス振付して、スタッフ・来場者みなで踊って盛り上がった。この日のために、事前にダンス練習動画を撮影・編集して公開した。

今回はサブステージとして「絵本読み語りオープンマイク」が登場。「小さいステージで、絵本を読んでみませんか？」と呼びかけ、公募や飛び入りのみなさんがお気に入りの一冊を読み語った。サッカーチーム「ラインメール青森」の選手も絵本を読み語ったり、手作り楽器“シャカシャカ”で絵本の読み語りに参加できる時間もあった。絵本 200 冊以上を子どももおとなも楽しめる絵本コーナーもあり、子どもからおとなまでが楽しんだ。

また、今回は有観客のイベントであると共に、本格的に YouTube 配信をして幅広い層の観覧が実現した。

①「冬の A-Paradise～ぼくらの創作体験カフェ～」（アート＆クラフト系イベント）

〇開催日時　令和 5 年 2 月 18 日（土）11:30～17:00／19 日（日）10:00～17:00
〇会場：青森市役所駅前庁舎アウガ 1 階 駅前スクエア　　〇入場参加無料
〇来場者数：278 名

【目　　的】青森の伝統工芸である「こぎん刺し」や、市出身のナンシー関が広めた「消しゴムはんこ」、また「墨絵」や「切り絵」に、より気軽に親しんでもらうことを目的とし、珈琲を飲みながら作れる“創作体験カフェ”を設置・開催する。

【実施報告】平成 30 年度・令和元年度に行った「冬の A-Paradise＝“版画喫茶”」は、市民、全国の方、外国の観光客までが立ち寄り、子どもからおとなまでが楽しめる体験スペースとして好評を博したが、その後 2 年ほどは新型コロナウイルス感染症の影響により、飲食を伴う催しや、距離をとりにくい創作体験系ワークショップは控えてきた。

今回は珈琲を飲みながら創作体験できるアート&クラフト系イベントの再開、第一弾。

一日目オープン前より、来場希望者が待っているなど、開催を心待ちにしている方が多く、開場後は常に創作体験の参加者や、珈琲・お菓子や作品を買い求める人で混み合った。「こぎん刺し」「消しゴムはんこ」「墨絵」に関しては、予約制ワークショップ及び“ふらっと寄れる体験ワークショップ”のどちらも開催。事前に講師にレクチャーを受けたスタッフが、来場者に作り方をアドバイスするなど、活気にあふれていた。入口にはアーティスト NOZ 制作による「A」の看板が出現し、子ども達を中心に、手作りした消しゴムはんこを押したり、ペンでお絵描きするなど、参加型の大きな作品を作り上げていった。

協力団体のあおもり子ども劇場会員の親子や、飲食出店者の子ども達を中心に、小学生のお子さんが参加して楽しんでいる姿が印象的であった。更に今回は、大学生の団体・個人の協力もあり心強く、地域のベテラン作家の皆様などにも寄っていただくことができた。A-Paradise が長らく目指してきた、地域の幅広い世代間交流と、アートと音楽の街づくりが一体化したような手応えがあった。